

即山女大家政 ○鈴木真喜子 斎藤洋子

目的 アノイリナーゼを含有する食品を摂取するとき、吸収前以上の程度ビタミンB₁が破壊されるのかを明らかにするため、先にしじみを生あるいは茹でて飼料に混合して動物に与え、その腸管内容物中のビタミンB₁を測定した。その結果、しじみ非投与群100に対して茹しじみ投与群85、生しじみ投与群10と、生しじみを投与することにより腸管内B₁は著るしく減少した。この傾向は飼料中のB₁量が少ない場合でも同様であり、又 *in vitro* で飼料に生しじみを添加し1時間おいてもB₁は破壊されていないことから、先の実験ではB₁が摂取後に破壊されたと考えられる。そこで本研究ではB₁がどこで破壊されるかを検討した。

方法 ウィスター系雄白ネズミを3群に分け、9日間B₁添加食にて *spaced feeding* した。と殺4日前からB₁食に生あるいは茹しじみを混合して投与した。と殺後、消化管を胃と、小腸を上部から20cm毎に分け、それぞれの内容物を0.05N-HClで洗い出し、B₁を臭化V₂O₅によるテオクロム蛍光法により測定した。

結果 胃内のB₁量は小腸内B₁量に比べて著るしく多く、しじみ非摂取群、茹しじみ摂取群は110%以上であった。それに対して生しじみ摂取群は20.2%であり、飼料摂取1.5時間後の胃内ではすでにB₁はほとんど破壊されている。小腸の区別ではB₁はいずれの群も上部から40cm以下に多く、上部20cm以内には少なかった。いずれの部位においてもしじみ非摂取群、茹しじみ摂取群に比較して、生しじみ摂取群のB₁量は少なく、B₁含量が多いほどその差は大きかった。以上の結果から、アノイリナーゼ含有食品を摂取すると、摂取後、比較的早い時期にビタミンB₁は破壊されると考えられる。